

# Community School だより

文責：菊岡 文枝  
(CS ディレクター)

寒中の候、保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動にご協力いただき、まことにありがとうございます。11月は2年生が九九暗唱を地域ボランティアの皆さんに聞いてもらいました。3年生はマックスバリュ見学に行ってきました。保護者ボランティアの皆さんに見守られながら買い物を楽しんでいました。ありがとうございました。また、11月21日には第2回学校運営協議会を開催しましたので報告いたします。

## 第2回学校運営協議会開催

11月21日（金）14:30から第2回学校運営協議会を開催しました。今回の内容は「前期学校評価アンケート結果」についてと「子供たちの居場所作りを考える」について話し合いました。

「学校評価アンケート」の結果はおおむねどの項目も目標とする数値に近い結果となっていますが児童、保護者、教職員との認識のズレがみられます。「学校に行くのが楽しい」の項目では約12%の子供が「楽しい」と感じていない。目標数値は100%なので課題です。また「自分に良いところがある」の項目では18%の子供が「良いところがある」と思っていない。須津小には自己肯定感が低い子供たちがいます。その点も課題です。

次の議題である「子供たちの居場所作り」の件では、学校側から学校には来るが教室に入ることのできない子が数名いる。その子たちは校長室、保健室、正面玄関横のテーブルのところで過ごしている。養護教諭、事務職員、用務員など教員以外の協力も得て対応しているが、ずっと見守ることはむずかしい。その子たちが安心して過ごせる部屋を設け、学校職員の対応だけでなく、ボランティアに協力していただくことができるだろうかとの現状報告と提案がありました。委員の皆さんからは「授業についていけない子はボランティアが入っても手助けにならないのではないか」「ボランティアに入っても子供と何をしたらよいかわからない。根本的な解決にはならないのではないか」「ケガをしたら誰が責任をとるのか」などボランティアに頼ることの不安の声があがりました。また学校と地域とボランティアがどう連携できるかについても活発に話し合いができました。「教室以外の場所を作り学校に足を運んでもらうことを利用したい」「学校に居場所があることで親は安心できる」「不登校の子供でも地域の活動には参加している。地域の活動に参加したことをきっかけに、登校できるようになった子供もいる」「地域と学校が協力して居場所を作っていくたい」「一人一人のニーズを考え、学校側で対応の仕方を伝えてほしい。連携がしっかりとれるようにしてほしい」「教育委員会には予算をつけ支援員を配置してもらいたい。それまで教員OBが対応し、そこにボランティアが入るのが良い」などの意見を受け「校内の居場所作り」が一歩前進することになりました。

## 11月の活動記

### 2年生 今年も九九暗唱ボランティアお願いしました

10月30日から12月9日まで、子供たちの九九暗唱を聞いて確認してくださる多くの地域ボランティアの皆さんのが来校しました。上、下、バラと子供たちが自分で決めて暗唱を始めます。つかえることなく暗唱出来たら合格です。聞いている大人も頭の中で九九を唱えるので頭の体操になります。ボランティアの皆さん楽しんで参加しています。



### 3年生 マックスバリュ見学

11月17日（月）須津駅と江尾駅間を岳南電車に乗って、マックスバリュに行ってきました。店内を見て回り買いたいものの消費税を含んだ値段を確認し、予算内だととてもうれしそうでした。レジも須津小の子供たち用に用意していただきました。大きな魚や肉の塊、ご飯を炊く大きな釜、白菜を切る大きな包丁など普段の買い物では見ることのできないバックヤードの見学もして、充実した時間を過ごすことができました。

